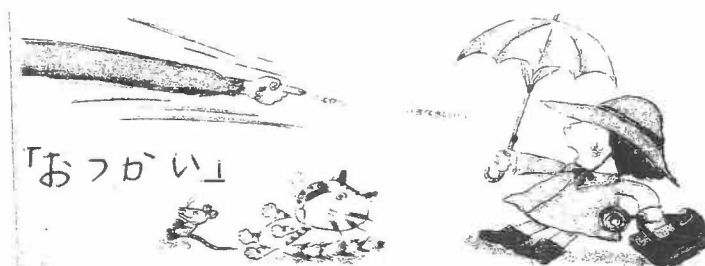


9月の園便り



令和2年 新潟青陵幼稚園園長加藤由美子

『なぜカラスはヒトと変わらない知性を持っているのか』（崎谷博征フェイスブックより抜粋）
カラス科の鳥は、非常に高い知性を持っています。カラス科の鳥は、ヒトの顔の区別ができ、さらにヒトのジェスチャーも判断できます。カラスに関してはさらにその上に知能で判断できる能力があるのです。それともう一つとても重要な特徴があります。それは、親が面倒を見る時期が非常に長いということです。カラスは、ヒトで言うと20歳前半までは親元で育ちます。カラスの親にとっては、これは最大の投資です。なぜなら、子供の知性が発達する脳は体全体の20%のカロリー消費があるので、それに見合った栄養を長年確保しないといけません。しかし、長年親元で育ったカラスは、親の行動を十分に観察し、サバイバルに必要な知識やスキルを最も効率よく身につけることができます
子供に十分な生育環境…楽しくて、刺激があって、制限のない環境…を与えることで、本来の潜在能力が発揮できるのです。

子供は親の十分な庇護を受けると、自然と20歳代の間に自立していくのです。

カラスは頭がよくて、人の言葉もしゃべるとよく聞きます。私が小学校のころの校長先生が、「カラスの校長先生」と呼ばれていて、庭に校長先生が出てこられると、すかさずカラスが飛んできて、校長先生の肩に乗り、ずっと一緒にいました。カラスが校長先生を慕っていたことは、小学生の私にも分かりました。そういえば、私が犬の散歩をしていた時、目の前に小さめのカラスが道路をちょんちょんと歩いていました「子どものカラス？」と思った時、いきなり背中をドン！と、どつかれたことがありました…親ガラスが子どものカラスを守ろうと私を攻撃したのです。この時の親ガラスの攻撃は、「犬と人間は危険！」と子ガラスに教えたことになったのかもしれません(笑)

カラスは高い知性を持っている…驚きです。知性は、知識を使って考えたり判断したり活動したりする力ですから、生きる力ともいえます。この知性が親と一緒に生活することで育っていくというのは、人間と同じですね。人間の子どもたちも、親の生きる姿を見て生きる方法を学び、獲得していきますものね。「早く集団生活に入れると自立する」と言われることがあります…いいえ、たっぷり愛されて育った子どもは、時がくればきちんと自立していきます、これが本当の自立、させられた自立ではないのです。文中に「子どもに十分な生育環境…楽しくて、刺激があって、制限のない環境を与えることで本来の潜在能力が発揮できる」とありますが、まさに、この環境は幼稚園が用意しなければならないことだと思います。こんな時期だからこそ、できる限り楽しくて、刺激があって、制限のない環境を用意することができるようになりたいと思っております。

9月の予定

日	曜	給食	降園時間	行 事
1	火	×	11:30	第2学期始業式を行います
2	水	○	2:30	本日から給食が始まります。
3	木	○	2:30	
4	金	○	2:30	
5	土			令和3年度入園のための体験入園を行います。
6	日	/	/	
7	月	○	2:30	
8	火	○	2:30	
9	水	×	11:30	
10	木	○	2:30	
11	金	○	2:30	
12	土			
13	日	/	/	
14	月	○	2:30	
15	火	○	2:30	
16	水	×	11:30	誕生会です、9月生まれさんの保護者の方、一緒にお祝いしましょう。
17	木	○	2:30	
18	金	○	2:30	
19	土			
20	日	/	/	
21	月	/	/	敬老の日
22	火	/	/	秋分の日
23	水	○	2:30	
24	木	○	2:30	
25	金	○	2:30	
26	土			
27	日	×	11:30	「なかよしカーニバル」詳細は後日配布の便りをご覧ください
28	月		/	振替休日（星の子さんは行います、お仕事をお持ちの方はご利用ください。）
29	火	○	2:30	
30	水	○	2:30	